

# 全道医家囲碁大会

名人戦は樋口晶文 6 段が 2 連覇(通算15度目)!

本因坊戦は丸山芳朗 5 段格が優勝(通算 2 度目)!

## 第38回全道医家囲碁大会に参加して

全道医家囲碁連盟

監事 竹内 實



## 第38回名人戦優勝記

札幌市医師会  
市立札幌病院

樋口 晶文



昨年の11月20日(日)札幌会館で開催された全道医家囲碁大会に2年振りに参加した。

例年通り南田英俊副会長(松山)の司会の下で、三宅会長の挨拶、上村収蔵地方棋士の紹介、南田副会長からのルール説明があり対局に入った。

名人戦は14名の登録でトーナメント方式、実績から樋口晶文先生(札幌)と高橋成夫先生(札幌)がシードされ6日半コミで戦われた。準決勝では樋口晶文先生と樋口栄作先生(札幌)の従弟対決となり樋口晶文先生が勝ち上がり、高橋先生を破った滝本昌俊先生(宗谷)との決勝戦となった。白熱する対決の結果、見事、樋口(晶)先生が前年に引き続いで優勝となった。1位には樋口栄作先生(札幌)、2位には坪俊輔先生(日振西部)、3位には土屋潔先生(苫小牧)が入った。

本因坊戦は3段から6段までの14名の登録があり変則リーグ4回戦方式で行われ、得点を重ねた丸山芳朗先生(札幌、5段格)が優勝、準優勝に石川順一先生(恵庭、5段)、1位に島功二先生(札幌、3段)となった、緒戦で三宅会長に敗れた小生は着外となった。

今回は若干初参加の先生も見られたが、希望をいえば本因坊戦はかつてのように初段前後~2段、3段~6段の2組で争われるのが望ましい。次回以降、初段前後の特に若い先生方の参加を期待する。

対局終了後表彰式が行われ、引き続き懇親会が行われた。この大会は、北海道医師会、札幌市医師会、メディコ北海道、損保ジャパンの協賛を得て行われていて、懇親会には長瀬道医会長がご出席し、ご挨拶をいただいた。

また、来年に向けて頑張るつもりである。

昨年の11月20日、全道医家囲碁名人戦に優勝できて嬉しく思います。恐らく15回目の栄冠で、「良くここまで来たなあ」というのが実感です。

一回戦は、強豪土屋先生(苫小牧)と白番でした。初戦であり、慎重に手を進めました。中盤で、黒に打ちすぎがあり3子を取ることにになり、優勢になり押し切りました。二回戦は渡会先生(札幌)と初めてお相手いたしました。先生は若手の本格派で、私が黒番で、互いに二連星から戦いが始まりました。黒の大模様对白が侵略して大激戦が最後まで続き、結局白の大石を取ることができ幸い致しました。渡会先生の力強い打ち振りは、とても印象的でした。

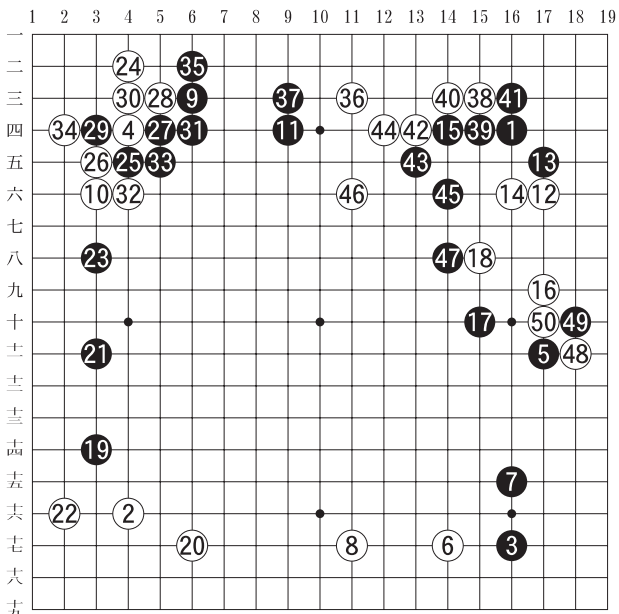
三回戦は、樋口栄作先生でした、この碁も、互いに二連星同士の大模様の戦いになりましたが、結局、お互い大地を囲いあい、白が黒の打ちすぎを捕らえ優勢になり押し切りました。

決勝は、ベテラン滝本先生(宗谷)で、私も過去2回負けており、2回優勝されている強豪であります。恒例の自戦記を書かせていただきます。

### 第一譜(1-50) 滝本(黒)対樋口(晶)(白)

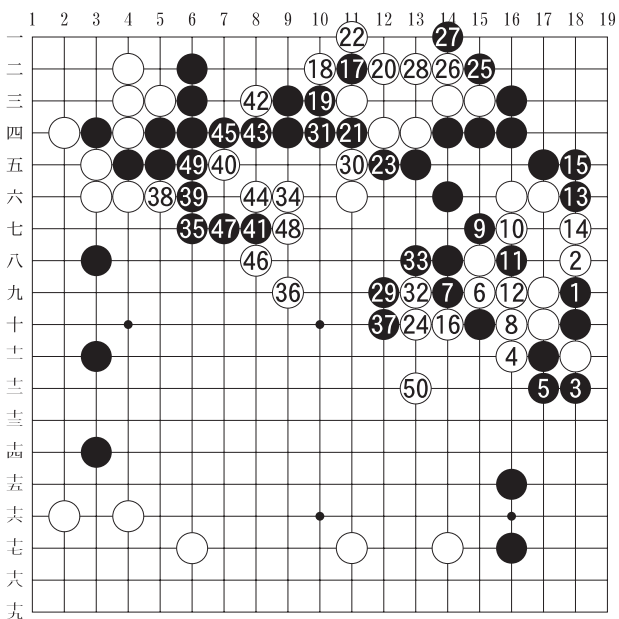
黒1、3、5と低い中国流に対して、白は2連星で対抗する。最近ではもっとも多い布石である。白6、8の構えはやや古い型である。以下、互いにしっかりと意志が分かれ、24までは細かい碁になりそうである。黒25と白地に利かしを打ったが、白も反撃して32と打たれ、黒は得をしなかった。終了後の上村先生の指摘も、黒不満足の評定である。上辺、白36に打ち込んで戦いが始まる。なかなか白を攻めることができず、46と顔を出しては捕まらない。黒47

第一譜 1-50



以下右辺の白を厳しく攻めて勝負どころである。白48とつけてさばく。

第二譜 1-50 (通算51-100)



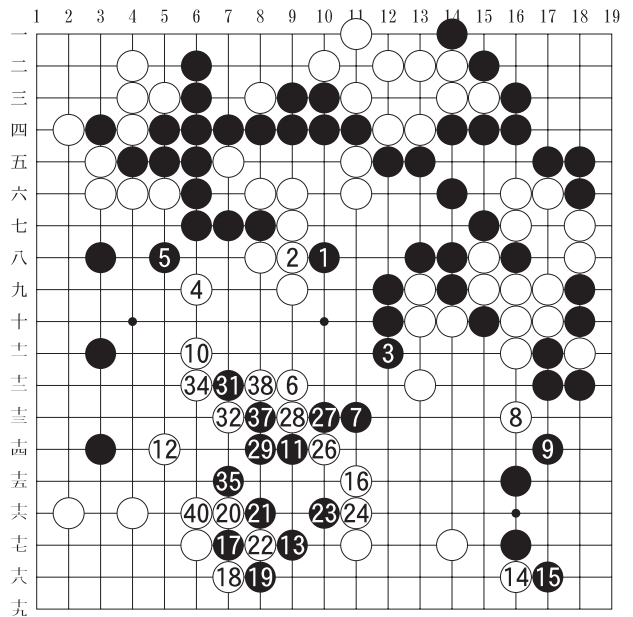
黒必死の攻撃も、白16と切ってはやや息切れ気味である。17は上辺の黒の眼形を奪うための厳しいつけであるが、白は18とはねだし上辺を生きる。23と上部の黒が切り離されたが、白24と伸びては黒字は少なく、白順調と思っていた。黒29と大きく囲うが、白34、36と逃げ出せば、黒字は増えない。白50と飛んでは優勢を意識しました。

第三譜 1-40 (通算101-140)

白4、6、10と中をくつろぎ黒の薄みをつく。下辺で黒17以降、大きな劫になったが、白には弱い石が無く、黒の苦しい戦いである。

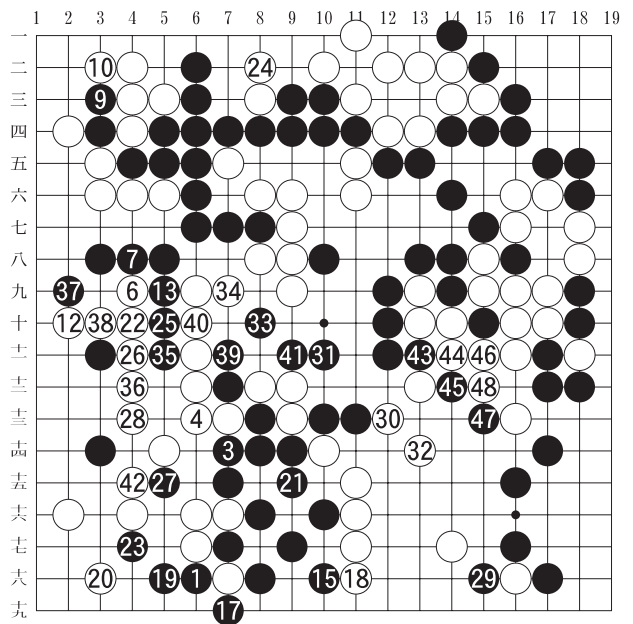
第三譜 1-40 (通算101-140)

25 (7-十七) 30 (7-十七) 33 (7-十七) 36 (7-十七)  
39 (7-十七)



第四譜 1-48 (通算141-188) 白中押し勝

2 (7-十七) 5 (7-十七) 8 (7-十七) 11 (7-十七)  
14 (7-十七) 16 (7-十七ツグ)



第四譜 1-48 (通算141-188)

下辺の黒の大石は、黒21と生きたが、劫代わりに白24と上辺黒石が死に大勢が決まった。瀧本先生は、初め、上辺の黒模様に入ってきた白の攻めを失敗したのが敗因と思われる。私には、上出来の碁である。

最近、ボケがひどく優勝は望外であった。これを機会に今後は棋譜並べ、詰め後の勉強、研究会など精進したいものであります。84歳で優勝した平田選手は私の希望の星であり、目標でもあります。

今大会の懇親会では、いつものように長瀬会長が来られ、楽しい会を作ってくださいました。いつも

ながら三宅会長はじめ、道医師会囲碁連盟の皆様の絶大なるサポートには、感謝一杯であります。また、ご指導いただいている上村先生には厚く感謝いたします。

今年は、新しい先生方が参加されて活気が出てきました。楽しく気持ちの良い大会が続くことを祈念いたします。お礼まで。

## 本因坊戦優勝記

札幌市医師会  
なかやま病院

丸山 芳朗



しばらくぶりに優勝できました。全道医家囲碁大会には、平成に入ってから何度も参加してきましたが、優勝は2度目です。以前は本因坊戦は2部に分かれていて、プロサッカーにたとえるとJ2リーグで三段での優勝でした。J1昇格後は、実力が伴わず参加にあまんでいたのが本当にうれしい優勝でし

た。

全勝優勝ですが、4戦とも苦しい碁で、ラッキーなだけでした。特に第3戦は、三宅会長との対戦で、断点はすべて切られ、序盤から押さればなしの碁でした。幸い中央の石が先手でしのげたので(なぜ?)最後の大所の三々に侵入し、ここが生きてコミがかりの様相でした。白押さえにはねたところ(小生黒番)、内側からのぞかれ死活問題に…。コウが生じてコウ材で周囲の白石が御用になり、なんとか勝たせていただきました。

次回から6段での本因坊戦か、名人戦にとの幹事南田先生のおことばでした。せっかくいただいたチャンスですので、会長の三宅先生はじめ皆様に感謝しつつ、玉砕覚悟で来年は名人戦にチャレンジしたいと震えています。

最後に、最近若い先生方の参加が増えて喜んでいきます。この大会のますますの発展をお祈りします。

## 第38回大会成績表

(敬称略)

### 【名人戦】

順位	氏名	得点
優勝	樋口 晶文	34
準優勝	滝本 昌俊	27
第1位	樋口 栄作	26
第2位	坪 俊輔	25
第3位	土屋 潔	24

### 【本因坊戦】

順位	氏名	得点
優勝	丸山 芳朗	34
準優勝	石川 順一	25
第1位	島 功二	24
第2位	大泉 和夫	19
第3位	三宅 直樹	19

## 北海道医報ファイルについて

北海道医報本誌を1年分綴ることができるファイルを用意しております。

ご希望の方には無償にてお送りいたしますので、下記まで送付先ならびに希望数をご連絡ください。

記

申込先：北海道医師会事業第一課  
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目  
TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233  
E-mail ihou@m.douji.jp

